2015 Asian Rowing Championships 審判参加報告

FISA 国際審判員(1265)
日本ボート協会国際委員
愛知県ボート協会，名古屋市ボート協会
田畑喜彦

今回 9 月 24 日から 28 日まで中国・北京で開催された 2015 Asian Rowing Championships に国際審判として参加する機会をいただきました。ここに下記のとおり報告させていただくとともに，いつもご指導・ご支援くださる日本ボート協会の審判員の皆様，FISA 国際審判員の皆様，そして日本ボート協会事務局のみなさまに感謝の意を表します。

1. “順叉奥林匹克水上公園(Shunyi Olympic Rowing-Canoeing Park)”

2008 年夏季オリンピックのボート競技の会場となった“順叉奥林匹克水上公園(Shunyi Olympic Rowing-Canoeing Park)”(写真 1A)で今大会は開催された。北京

1A

1B

の中心部から北東に 15km ほどのところにあり，北京首都国際空港よりさらに郊外にある。このコースはオリンピックのために作られた人工のコースで，カヌー（スラローム）用の流水コースとボート・カヌー（カヤック）用の 2,000m 静水コースが同じ公園内にある（写真 1B）。ボートコースはレース用のコースと練習用コースが別になっており，両コースを仕切る堤防のゴール側の端に，フィニッシュタワーとメインスタンドがある。中国には北京と同仕様のコースが 7 箇所あり，地域ごとに日本の国体のような大会が開催されるとの話を伺ったことがある。2012 年に南昌で開催された Asian Junior Rowing Championships の会場も仕様はほぼ北京のコースと同等であり，設計は北京のコースと同一人物（スベトラさん？）と，当時中国の審判員から伺った記憶がある。

今回の私の役割認識としては，国際審判員として大会に参加することと，日本ボート協会の国際委員（施設担当）として北京のコースを検分することであった。特に後者については国内におけるライフラインのインフラ整備を生業と

してきた経験から，日本の（過剰ともいわれる）品質と Chinese Quality の比較と，2020 東京オリンピックのボートコースを Legacy として 2020 東京オリンピック後の 50 年後にも国民に利用される施設とはどうあるべきか北京のコースを参考にすることであり，今回の北京オリンピックコースの現状は大きな示唆を与えるものであった。

2. 北京オリンピック会場の現在

報告書作成に当り，2008 北京オリンピックに審判として参加された千田隆夫氏（日本ボート協会理事，国際委員長）の写真を参考に引用させていただく。

本会場ではオリンピック以降国際大会は開催されておらず, 7 年ぶりの大きな大会とのことである。現地で香港のコーチと話した際，彼らは昨年にも同コースを訪れているがオリンピックで問題となった水草"weeds"が伸び放題，建物も劣化が進み今大会開催も危ぶまれたとのことであった。これはオリンピック当時大きな問題となったものである。オリンピックの際はコースの底から大量の草が長く伸び出して，その先端が水面近くに達し，さらにその草がちぎれて水面に浮かび上がり，連日暑い日が続いたため事態は日ごとに悪化し，終いにはレース中のボートの底に草が当たる状況であったらしい。このため発艇前に各レーンに配置されたダイバーに艇まで泳いでいかせ，艇の底，ラダー等に水草がまとわりついていないかどうかをチェックさせたとのことである。

幸いにも今回は大会前にコース抜水により干し上げて水草を除去し開催にこぎ着けたとのことであり，水草による問題は発生しなかった。しかし後述するように建物の劣化は著しく，香港コーチによれば中国（大陸）は箱モノをぶち上げて作るが後のメンテナンスがなっていないとのことである。

まずは北京オリンピックボート会場のシンボルともいえる判定塔を見てみよう。左が当時，右が今日である(写真 2A，2B)。この色褪せ様は何たることか。初めて判定塔を目にした私もこれまでに写真で見た色鮮やかなものとは似ても似つかぬものにびっくりした。

2A

2B

次に発艇エリアである。発艇塔，線審塔の当時と現在(写真 3A，3B)，(写真 4A，4B)。

3A

3B

発艇システムはシグナルではなく，旗。線審のフォルススタート判定も静止画像ではなく(高精度な)ビデオカメラ。もちろん画像は発艇号令とシンクロしていないため静止しない。わざわざモニタにて確認する

4A

4B（奥に見えるのが線審塔）

のだがスリットを見ていた方がより正確である(写真 5A，5B)。ここの辺り，明らかに日本式手法が優れている。また建物には内装材の剥がれが随所に見られ

5A

5B

た(写真 6)。コンクリート製マンホールには多数の放射状クラックが発生しており，どのような配合で製造管理が行われたのか，不思議な国である。

6

FISA MANUAL にはボート会場に併設する施設としてビーチバレーボールのコートが推奨されている。ここ北京にもコートはあったもののその状況から利用されたことがあるのかなと思わせるものであった(写真 7)。

7

以上オリンピック開催からわずか 7 年間経過した施設の劣化状況から, 当事の工事の杜撰さとその後のメンテナンス不備(通常 7 年間程度でメンテナンスは必要としないのだが・・・)が容易にうかがえ，今後このコースを維持することの大変さを想うに, まさに負の遺産として今後も劣化との闘いが待ち受けているのではないか。翻って 2020 東京オリンピックのコース整備計画構築に当たっては，本設備と仮設備の仕分け，それに応じた将来のメンテナンスを踏まえた要求品質レベルの設定とその確実な実施がイニシャルコストとランニングコストを最適化し, 将来に亘り"LEGACY"として国民に愛され利用されるボートコースとなるのではないかと痛感した。折しも 10 月 16 日には東京都から海の森公園コースの入札告示が行われた。海に設置するコースとして，おそらく水質問題との長いお付き合いが始まることとなるだろう。

海の森水上競技場完成イメージ図

3. 審判業務について

(ア)開催種目，参加クルー

今回パンフレットの部数が十分でなく，審判には一部も配布されなかった。審判長は盗難にあったと説明していた。配布された"Provisional Programms"によると開催種目は GroupA と GroupB に分かれ，それぞれ以下のとおり

Group A M2-，W1X，M4X，W2-，LM1X，LW4X，M4-，W2X：61 クルー

Group B M1X，LW1X，W4X，LM2X，LM4-，M2X，LW2X，M8+：71 クルー

(イ)審判業務

参加審判員は下記 8 ヶ国，15 名である(残念ながら 10 月 23 日現在審判集合写真は届いていません)。

President		
Bing Liang	CHN	1503
Members		
Dongxiao Liu	CHN	1505
Rucong Huang	CHN	1461
Yoshihiko Tabata	JPN	1265
Kyunghwan Han	KOR	1632
Donghoon Kay	KOR	1635
Bobo Tun	MYA	1705
Chan Myaemaung	MYA	1656
Praparnpongs Pochanasomnurana	THA	1558
Tanormsak Senakham	THA	1661
Naren Kohtari	IND	971
Sandeep Gupta	IND	1536
Seehung Ng	HKG	1369
Hangtim Wong	HKG	1519
Eva Rulianingtyas	INA	1294

レースプログラムと私が担当した部署は以下のとおり。主なトピックを記す。

	午前	午後
24 日	Heat,	Para Rowing
	Athlete Weighing	
25 日	Repechage	Para Rowing Final
	Umpire	Control Commission (In)
26 日	Repechage	Semi Final
	Umpire	Responsible Control Commission
27 日	Final	
	Marshal at Warm Up	
28 日	Final	
	Starter	Judge at the Start

① Athlete Weighing

軽量級漕手と舵手計量が行われる部屋はパーテーションで区切られ，選手のプライバシーが確保されている。計量開始前にパートナーの地元審判員に標準重量を確認すると，10kg のものをパーテーションの後ろから，自分の鞄からビニール袋に包まれた 0.1kg のものを用意してくれた。おそらくオリンピックの際に用意した物であろうが，秤の最小表示である 0.1kg の標準重量を確認したのは初めてであった(写真 8)。

今大会で香港の男子ダブルスカルクルーが計量をパスできず失格となった。香港のコーチに確認したところ，前日の発熱で水分を摂ることを最優先した結果であり，選手の健康を考えてのこと，納得顔であった。

② Marshal at Warm Up

Final が開催された 27 日，28 日は回漕コースにこのポジションが新設された。目的は出漕クルーを時間通りに誘導し定刻発艇を目指すこと。審判長からは私にボートを用意するのでそれを使い誘導するよう指示があったが，大型の観光船のようなボートであり回槽レーンでの波を考慮すると線審横のブリッジから指示をする方が良いとの私の提案を受け，両日とも橋上から指示を与えた。

③ Starter

このポジションは基本的には国際審判 1 名，国内補助 1 名の 2 名体制である。ブイは整然と配置され，線審横から Marshal at Warm Up に誘導されたクルーのコース呼び込みは整然と行われた。発艇システムは至って簡素，前述のとおり旗による発艇であり，有線回線もなく審判無線を使っての発艇号令の確認等オリンピック当時の備品等保管状況は不明であった。

④ Judge at the Start

このポジションもオリンピック当時の備品は一切ない模様。スリットを透視するのではなくビデオカメラを通じて映されたモニタ画面を視認する。これも当時と今回の写真を見比べておこう(前述のとおり，写真 5A，5B)。また発艇のタイミングも本人が確認するため微妙な"ずれ"がある。国内の補助員はアライナーと旗の上げ下げを兼務しているのだが，彼もモニタ画面を確認しながら室内で艇揃えを行い，室外で旗を揚げるという無駄な動作が多かった。オリンピック当時用意されていたであろう"白ランプ"はどうなったの？

と，また疑問が湧いた。

但し，ボートフィンガーは構造的には良くできており，艇首揃えは非常にスムースであった。この写真(写真 9A，9B)はボートフィンガーを出し入れする地元係員を写したものであるが，彼は座ったまま足で操作ができる優れものである。

9A

9B

⑤ その他

今回の Final では"ドローン"による中継が観客席向けに行われた。残念ながらその場所で確認することはできなかったが，今後日本の大会でも安全面や法的な縛りが解決できるものであれば，日ボの中継システムに上空からの画像を取り込むことができればスペクタクルな中継が可能となるであろう。

4. Para Rowing Classification

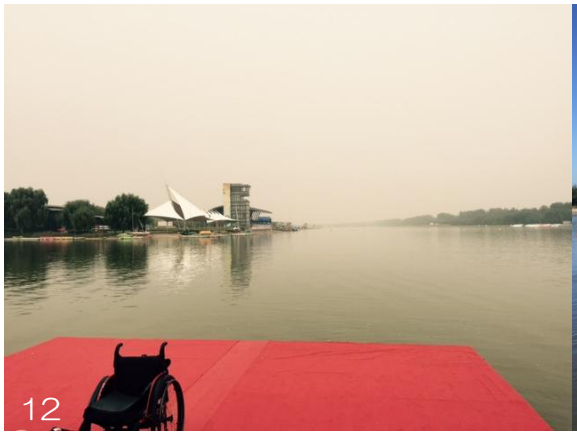
今大会では Para Rowing に併せ，FISA Classification のメンバーを招聘しての ARF の Classification Camp が開催されていた。私にとっては 8 月に戸田で開催された FISA セミナーでの良きおさらいとなった。今回は ASM1X，ASW1X のみであったが，フロートの着水状況(写真 10)，上体を固定するためのベルトの位置(写真 11)，背当てパッドの厚み等の講習があった。

10

11

5. 北京の PM2.5

今回の大会参加では北京のスモッグのひどさと大雨の後の青空のギャップを体感した。ボート会場のある順叉区は北京の郊外にあるにもかかわらず，PM2.5 はひどくコース遠方でさえ霞んで見える(写真 12)。しかし大会初日の夜，東海豪雨を彷彿させる豪雨の翌日見事な青空が見えた(写真 13)。これは土日を挟んだためか，幸いにも最終日までは PM2.5 を体感することはなかった。旅行者であれば大会初日の状況では思わずマスクをするのだろうが失礼にあたると思いそれもできなかったため, たった一日の辛抱で済んだことは本当にラッキーであった。


12

13

6. ARF 総会

大会開催中 ARF(Asian Rowing Federation)総会が開催され出席したため，報告書の最後に簡単に要点をまとめ今大会の審判参加報告書としたい。

主な議題は以下のとおり。今回の ARF 総会は中国の Wang Si 会長が就任後最初の総会であった。総会開催前には会場で地元のマスコミらしき人たちからの取材を受けるのだが，そのスタイルはシャツにジャケット，ジーンズと米西海岸の IT 経営者に倣ったようなスタイルであり，その晩に開催された Nations Dinner も含め演出を意識したものであった。

① 日本代表：千田隆夫（選手団長）、田畑喜彦（国際審判員）

② 主な議事：

(ア)出席国確認→21 ヶ国（全 33 ヶ国中）

(イ)2014 年総会議事録

(ウ)会長報告

(エ)2015 年の会計報告

(オ)2016 年の予算

(カ)2015 年の年会費→これまで通り、200 ドル（USD）/年とする

(キ)2016 年の総会開催地→2016 年アジアボート選手権開催地で開催する

(ク)今後の ARF 大会及びアジアで開催される国際大会

[2015 年]

・アジアカップⅡ（11 月 12～15 日、テヘラン、イラン）

→後日中止がアナウンスされた

[2016 年]

・アジアカップⅠ（3 月 26～29 日、イラン）

・アジアインドア選手権（4 月 6～7 日、ピョンヤン、北朝鮮）
開催期日はオリンピック予選会（４/22-25）以降に変更を検討

・リオデジャネイロオリンピック・アジア/オセアニア大陸予選会
（4 月 22～25 日、忠州、韓国）

・アジアジュニア選手権（7 月 27 日～31 日、パタヤ、タイ）
タイの立候補を受けて、シンガポールは辞退した
開催期日は 9 月以降に変更を検討

・アジアカップⅡ（シンガポール）

・アジアビーチゲーム大会の中で“ビーチローイング”300m のスラローム
（9 月 27 日～10 月 1 日、ダナン、ベトナム）

・アジア選手権（立候補なし）→12 月末までに立候補なければ中国

[2018 年]

・アジア大会（期日未定、ジャカルタ、インドネシア）
距離は 2,000m とスプリント 500m、種目は ARF 定款との絡みで未定

(ケ)新加盟国申請（カンボジア）→承認（ARF 加盟国は 34 ヶ国に）

(コ)ARF 定款及び ARF 規則の改定

i.委員会の新設

・Sports Medicine Committee

・Masters Rowing Committee

ii.主な大会で実施すべき必須種目の設定

注）「必須種目」は必ず実施しなければならない種目

<u>アジア大会</u>

M1X　M2X　M4X　M2-　LM1X　LM2X　LM4-
W1X　W2X　W4-　W2-　LW1X　LW2X　LM4X

<u>アジアパラ大会</u>

ASM1X
ASW1X
TAMix2X　LTAMix4+

<u>アジア選手権</u>

M1X　M2X　M4X　M2-　LM1X　LM2X　LM4-　ASM1X
W1X　W2X　W4-　W2-　LW1X　LW2X　LW4X　ASW1X
TAMix2X

<u>アジアジュニア選手権</u>

JM1X　JM2X　JM4X　JM2-　JM4-
JW1X　JW2X　JW4X　JW2-　JW4-

(ス)FISA 新会長（ジャン・クリストフ　ロランド氏）の講演要旨

- IOC の Agenda2020 に向けた FISA の改革が進行中。
- オリンピックの開催規模が膨張するなか，ボート参加者は陸上，水泳に次ぐ三番目の規模であり，Agenda2020 に沿った改革を行わない場合には厳しいペナルティー（オリンピック種目からの削除、参加選手数の削減等）が課せられるおそれあり，ボートとて安穏としていられない。
- 具体的には男女参加者数の均平化や持久力だけでなくスプリント要素を求めるため 500m レース，スリリングでエクサイティングな Coastal Regatta を積極的に導入するなど短期的な視点ではなく、長期的展望に立った建設的な意見・理解を FISA 全加盟国に求めたい。
- 2017 年臨時総会(東京開催予定)で、Agenda2020 に向けた FISA 定款と競漕規則の大改訂を行う。

ARF 総会で講演するロランド会長

Nations Dinner

以　上